

評価実施年度	令和 3 年度	学校名	大分県立 大分鶴崎 高等学校	
学校教育目標	主体的に活動し、多様性を認め合い、挑戦意欲を持つ生徒の育成			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	教科等横断的な視点	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の使命や価値、時代や社会のニーズ、学校の教育課題等を踏まえ、明確な学校経営ビジョンが策定されているか。 ○学校の教育目標によって育成を目指す資質・能力が明確にされ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・創立110周年を機に、学校の使命、地域社会の要請、時代のニーズを総合的に勘案して大きく変更した学校経営ビジョンに基づき、校長の優れたリーダーシップのもと、管理職を含む教職員が一丸となって、着実に教育活動の実践ができてきている。 ・前回の訪問時に指摘した学校の抱える課題に関する過去の事例の検証についてはまだ十分に行われていない。日々の問題への臨機応変な対応力には優れているので、対処療法的な取り組みだけでなく、過去の課題を根本的に解決し、その失敗を繰り返さない骨太の教育活動を実施することができれば、今後も発展し続ける学校経営の実現を期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解決すべき課題についての具体的方策を明確にし、取組指標に対する検証指標を見直す。 ・過去の課題を根本的に解決するためにも、実施後にはその効果を運営委員会で協議し、職員会議で情報を共有することで、次の取組につなげる仕組みを構築する。
	P D C A サイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の抱える課題解決に向けて目標の重点化が図られ、自己評価・学校関係者評価等を活用して検証・改善が行われているか。 ○着実な学校改善が図られるよう、校務分掌が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・学校評価に関する細かな達成指標と取組指標を掲げ、様々な研修や分掌活動を行いながら、着実に成果を挙げている点は素晴らしい。ただし、生徒を対象にしたアンケート指標については、やや客観性に欠ける面もあるため、それを補完する新たな指標についても検討する必要がある。 ・分掌機構の見直し、運営委員会の活性化、意見を主張しやすい職員会議の雰囲気作りなどに取り組みもうとしている点は評価できる。しかし、分掌主導のPDCAサイクルを効果的に行うためのフローチャートの作成や分掌間の連携方法などの具体的方策に関する議論はまだ十分に行われておらず、今後の改善に期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートでは、「思う・思わない」の感想だけでなく、その理由を具体的に記述できるよう、質問や回答の方法を変更する。 ・分掌主導のPDCAサイクルを効果的に行うためにも、分掌の年間計画に重点的取組と取組指標を位置づけ、各取組に対する検証結果を踏まえて、次年度の取組が行えるようにする。 ・重点目標への進捗状況について各学期ごとに確認し、運営委員会で情報を共有することで分掌間の連携を図る。
	社会との連携・接続	<ul style="list-style-type: none"> ○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用や、学校便りの発行など、情報の伝達・公開を適切に行っているか。 ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・中学校等との連携や地域の外部人材を活用した取組を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・令和3年4月～令和4年1月までに、約100回のHPの更新が行われており、生徒・保護者・地域に対して、タイムリーで内容豊かな情報発信を行っている点は高く評価できる。 ・前回の訪問時の指摘を受け、保護者を対象にしたアンケートにすぐに着手した点は高く評価できる。その結果、保護者の満足度も非常に高いことが明らかになり、学校の日々の活動の成果を保護者も認識している点は素晴らしい。保護者の満足度は学年が上がるにつれて上昇しているため、低学年の保護者の満足度を高めるためにも、保護者間の縦のつながりを作り、保護者全体の満足度をさらに高めてほしい。 ・放送部が中心となり作成した中学生に対する学校PRビデオはクオリティーも非常に高く、素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAと連携して、保護者が必要としている情報がタイムリーに届けられる仕組みを構築する。また、低学年の保護者への情報提供のあり方を研究する。 ・年度末に保護者アンケートを実施し、次年度に活かせるよう情報の共有を図る。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究を計画的に実施することなどを通じ、授業改善に学校全体としてPDCAサイクルを活用し、組織的に取り組んでいるか。 ○授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・デジタル推進部という分掌を中心に、ICT機器の効果的な活用を目指した教員研修を積極的に実施している点は高く評価できる。生徒および教員に対するアンケートからもICTの積極的な活用と授業改善が着実に進んでいることが窺える。しかし、今回の授業参観では、その成果を確認することができなかった点が残念である。今後は、タブレット使用における学習効果について、各教員の授業評価に生徒が記載した内容を共有するシステムを構築し、継続的な研修を行いながら、さらなるICT機器を活用した授業実践の深化を期待したい。 ・新型コロナウイルスの関係で出席停止になった生徒のために、Teamsで授業配信を行い、学習機会の確保のために尽力している点は高く評価できる。 ・廊下等の掲示板にクラスごとの毎日の平均学習時間を掲示することによって、生徒の学習意欲向上につなげ、家庭学習の習慣化を図っている点は素晴らしい。 ・「主体的な学び」「深い学び」が実現できている授業は1/3程度であるという生徒の声もあり、生徒アンケートの結果との乖離が見られる。実際に、今回の授業参観においても、生徒に考えさせるような授業は少ないように感じた。主体的かつ深い学びができていてと生徒自身が実感している授業実践を行っている教員の授業手法を互見授業や授業公開などを通して共有し、アンケート結果と生徒の実感との差を埋める努力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的かつ深い学び」の実現のため、授業の目標を生徒と共有し、それが達成されているかを生徒と共に検証できるよう、授業アンケートの内容について研究を進める。 ・教科間の連携を通して授業改善を推進するため、生徒及び教員アンケートの結果を教科会議で分析し、授業改善推進委員会で情報を共有する。 ・互見授業や研究授業のテーマとして、「生徒に考えさせる授業」を設定し、教員同士が共通テーマとして協議できるようにする。
	安全・安心な教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・文化祭での軽微な差別的な発言を問題として取り上げ、すぐにその問題を全教職員への研修および全校生徒への人権HRAという形で共有し、アンコンシャスバイアスの身近な例として人権教育を実践した点は高く評価できる。このような小さな問題を見逃ごさない問題意識の高さ2学期に予定していた人権教育の内容を現状に合わせて変更するという柔軟性は素晴らしい点である。 ・保護者、生徒のアンケートでも教職員の対応に対する満足度が高く、生徒・保護者－教師間の強固な信頼関係を築くことができていた点は、他校の模範となる。しかし、生徒の中には、教員から生徒への声かけは少ないという声もあったため、生徒－教員双方方向での普段からの声かけに今後一層配慮してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係づくりプログラムについては、生徒アンケートの結果に基づいたプログラムの検証を行い、更なる工夫改善を図る。 ・個人面談や普段からの声掛けの工夫により、いじめや不登校につながる事案の早期発見を図る。
信頼される学校づくり	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・前回の訪問時の指摘を受け、定期的に避難訓練を行うことが難しい津波や水害時の避難所(1km以上先の高台)への避難訓練の方策として、生徒会を中心に避難場所への疑似体験ムービーを作成している点は評価できる。来年度以降、一般的な避難訓練に加えて、このムービーを活用した避難訓練も年間計画に取り入れ、積極的な活用を期待したい。 ・体験型シミュレーションを含む交通安全指導の成果が表れ、2学期に入り自転車事故が減少している点は評価できる。また、交通自治委員を中心に自転車事故減少に向けた交通安全ムービーを作成している点も素晴らしい。今後このムービーも活用しながら、1年生1学期の自転車事故の減少につながる指導のあり方について検討し、自転車事故0の達成に向けて交通安全指導を継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の推進のため、避難訓練だけでなく、疑似体験による避難行動を学ぶ機会を年間計画に位置づける。 ・交通事故防止を図るため、年度当初に1年生を対象に、関係機関との連携による交通安全教育を行う。
	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革については、年間15日の年休取得という目標にはまだ至ってはいないが、1月末時点での年休取得状況は平均11日であり、管理職および教職員全体で着実な努力がなされていることは高く評価できる。年度当初から時間休を取りやすい曜日を設定するなど新たな方策も検討する必要があるが、教員数や業務分担内容など、教育現場の特性上、学校独自で解決することは難しい問題であると思われるため、県教育委員会全体でも検討すべき課題である。 ・教員－生徒間、および教員間ともにICTを活用した情報共有の効率化が着実に実践されている点は素晴らしい。教職員の努力により問題は発生していないが、対象(対生徒・対教員)によって異なるIDを用いて情報共有を行っているということであるため、個人情報等の漏洩が生じないように今後もセキュリティ対策を確実に進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のICT活用スキル向上のための研修を年に3回以上実施する。 ・情報セキュリティに関する研修は全職員が1年以上受講する。
学校課題の解決に向けた取組等	学校課題の解決に向けた取組等	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的なICTの活用について ○学力向上について 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIが生徒一人ひとりの学力に適した課題を提供する「AIDリル」の活用や、各教科からの計画的な課題の提供等で、生徒の基礎学力の向上に尽力している点は素晴らしい。生徒の声では「AIDリル」は「間違えた問題を見直すことができないため、復習することが難しい」「間違えると課題がどんどん増えて負担だ」という声も聞かれた。またリル十各教科からの課題で家庭学習の習慣化はできているものの自分で課題を見つけ、自分で勉強する時間がないという意見も生徒から聞かれたため、生徒の自主自立的な学習を支援する方策の検討が望まれる。 ・進学率に関しては、まだまだ生徒・保護者の期待に応える余力があると思われる。そのため、今後ますます生徒が希望進路を実現することができる学校となるように、3年間を通したキャリア形成および学力向上に向けた取り組みを期待する。 ・設置されているエレベーターを使用して移動できない教室があり、怪我や障がいのある生徒に対応できていないという声があった。エレベーターの位置と教室配置等を再度見直し、バリアフリー化の推進を期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習の内容の充実を図ることにより、生徒自身が課題を見つけ、課題解決のために見通しをもって行動する力を育成する。 ・ICTの活用により、「生徒の学びに向かう力」の育成を図るための研究を進める。
	総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者の満足度も高く、入学志願者も安定的に確保している状態でありながら、そのことに慢心せず、地域に愛され、信頼される学校づくりのために、学校改革に意欲的・積極的に取り組んでいる点は高く評価できる。来年度以降定員増になっても、現在の教育の質を維持・向上しながら、大分市東部の普通科の拠点校・伝統校としてのさらなる発展を期待している。 ・部活動加入率が85%以上であり、文武両道の学校方針のもと、コロナ禍でありながら、ハンドボール部・硬式テニス部・書道部・美術・写真部などを中心に着実に成果を残している点は素晴らしい。 ・スマイルウエズデーというクラス単位で行う挨拶運動、地域清掃活動、「つるりば(鶴崎地域活性化を目的とした民間活動)」、子ども食堂などで年間延1400人以上の生徒がボランティア活動に自主的に参加している点は他校の模範となる状況である。校内および学校周辺の清掃も常に行き届いており、高いレベルでの公共心・公德心の育成を実践している点は非常に素晴らしい。 ・大分県教育委員会主催の「グローバルリーダー育成塾」での最優秀賞、「第9回創造力、無限大∞高校生ビジネスプラン・グランプリ」でのベスト100に選出等、学校外での活動でも生徒の取り組みが高く評価されている点は素晴らしい。今後、このような校外での活動に参加し、活躍する生徒がますます増加していくことを期待している。 		
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的探究の時間を社会に開かれたカリキュラムマネジメントの柱に位置づけ、そのための年間指導計画を再構築する。 ・授業改善の推進と個別的に適正化された家庭学習を一層推し進めるために、タブレット端末を有効活用するための研修の実施する。 ・生徒の批判的思考力や論理的説明力の向上に向け、生徒会活動の活性化を通して、主権者教育を推進する。 			